

按百足和名阿比古形似織梭故俗呼曰梭蟲無之乎左黃色大一二寸者多矣俗以百足訓蜈蚣者非也

〔重修本草綱目啓蒙二十八下〕馬陸アマヒコ和名エンザムシ京ミグムシ山勢州クサムシ

大和ヲサムシ勢州龜山南ヤスジ水戸ヤスデ關東ゼニムシ豫州タイコムシカ
本草ヤムシ讚州ダイロウ肥前ワムシ備前一名娘爾雅馬騷爾雅馬蠲灼同上馬蚰爾雅

疏 商距通雅 秦渠馮功共同錢龍識輔志

夏月水濕ノ處ニ多シ、盥盆ノ邊殊ニ多シ、長サ八九分、徑一分許、背ハ紫黑色、節多クシテ蜈蚣ノ形

ニ似タリ、足ハ蜈蚣ヨリ數多クシテ淺褐色、腹モ同色ナリ、江戸ノ産ハ形稍長大ニシテ、節ゴトニ

赤黒相間レリ、皆甚ダ臭氣アリ、若ソノ身ニ觸ル、時ハ首ヲ内ニシテ卷曲シテ錢ノ如シ、

ゲチク

〔和漢三才圖會五十四〕蚰蜒 入耳 蚨蚘 蝟蝮 蚘蛄 蛤蛭 介和介和

按蚰蜒有毒、如舐頭髮則毛脫、昔以梶原景時比蚰蜒、言動則入、讒於耳爲害也、

〔嬉遊笑覽一〕今俗に身のうちをけじくケジキに這はれたる處の毛ははげておひすといふ、或云此

俗説は下食時ケジキを誤りたる也、下食時とけぢくケジキと聲近きをもて云、是をさかるべからず、けじく

は本草山蝨蟲の附録なる蚰蜒なり、此蟲人の耳に入る事あれば、一名入耳ともいへり、但し、その

這たる跡、毛のはぐるよしは見えざれども、こゝには昔よりいひ傳へたり、實に此蟲の這たる處

腫て瘡となることあり、鷹筑波集けぢくケジキにどこねぶられてよめがはげ、又紅梅千句に、守宮の

ゑるしはげたるぞうき季吟けぢくケジキが留主する部やに這廻り、長頭丸とあるにてもゑるべし、

これら皆けぢくの假名を用ひたり、これも下食より云名ならばけしケジキのかななり

〔新撰字鏡虫〕蟪豆反、久母 蜘蛛久 蟪高字足

〔倭名類聚抄十九〕蜘蛛 本草云、蜘蛛知音一名蚰蟪拙和名久毛兼名苑云、龍龍今案即蜘蛛二字也、一名蟪聚余

名稱

音二